

## パネル 2013年度せんだいメディアテークでの企画

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2015-05-30 キーワード (Ja): キーワード (En): Tohoku Gakuin University 作成者: 東北学院大学文化財レスキュー班 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/362">https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/362</a>

# 牡鹿半島のくらし展 in 鮎川 開催

パネル作成：阿部千賀子  
伊藤瑞穂  
櫻井かほり

## ◎ 「聞き書きシート」の作成

こうして聞き書き調査により集められたデータは「聞き書きシート」に記録します。

このシートはお話を伺った方の年齢や性別、出身地などの情報と、会話の内容を記入できるようになっています。会話の内容を思い出しながら、できる限り再現するのは大変な作業でした。



聞き書き調査の風景

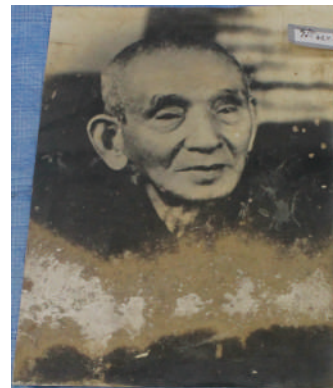


聞き書きシートへの記入作業

## ◎ 捕鯨会社への取材

また、鮎川の捕鯨会社への取材もおこなわれました。岩崎・グッドマン・まさみ先生率いる北海学園大学の学生と共に取材にあたりました。

捕鯨業界を取り巻く現状や、鯨の伝統的な加工方法などについて伺い、鮎川の主要産業のひとつであった捕鯨についての理解を深めました。



捕鯨会社の元社長とされる写真

## ◎ 老人ホーム・デイサービス施設での聞き書き調査

新しい取り組みのひとつとして、老人ホーム・デイサービス施設へ資料を持ち込み、年配の方々からお話を伺うという調査をおこないました。

どの方も資料を手に取りながら、昔の思い出話を語ってくれました。ある女性はわらじを見ながら自分も若い頃に竹の皮を使って編んだと話し、わらじの編み方を詳しく教えてくれました。

老人ホーム・デイサービス施設では、実体験を多く交えた昔のくらしの様子をより詳しく聞くことができ、展覧会での聞き書き調査とは違った新たな発見もありました。



デイサービス施設での聞き書き調査

## ◎ 展覧会を終えて

鮎川展では新たに事前に資料のデータ収集をおこなっただけでなく、老人ホームや捕鯨会社でも聞き書き調査をおこなったことから、より踏み込んだ話を伺うことができました。

今後の展覧会でも、さらに多くの方々から話を伺うことができると期待されます。またこれと並行して二酸化炭素ガスによる殺虫処理や、脱塩処理も進めていきます。データの収集活動と資料の保全活動を軸として、本学による文化財レスキュー活動はこれからも続いていきます。